



中川 雅之 議員

環太平洋パートナーシップ
（TPP）協定対策と本市の
農業の推進について

本市における農産物のブランド化を推進する取り組みとしては、株式会社大田原ツーリズムをはじめとした6次産業化を推進する団体や、ブラン

ド化に取り組む農業者等と連携し、新商品の企画・開発等を行っています。6次産業化への取り組み状況としては、市内において4つの経営体が行っているほか、多くの農業者等が自家産農産物を加工し、農産物直売所等での販売にとどまらず、独自の販売ルートの開拓を行っています。

また、本市は認定を受けた農業者等が「6次産業化交付金施設整備事業」をいち早く活用することで、6次産業化に取り組む農業者等の施設整備に対する支援を行っています。

質問（中川雅之議員）
地域資源を活用した農産物のブランド化及び6次産業化の推進について本市の取り組みと今後の考えについて伺います。

質問（高野礼子議員）
難聴者に対するバリアフリーの考えについて伺います。

また、本市は認定を受けた農業者等が「6次産業化交付金施設整備事業」をいち早く活用することで、6次産業化に取り組む農業者等の施設整備に対する支援を行っています。



高野 礼子 議員

那須野が原ハーモニ
ホールについて

難聴者は補聴器を使用している場合でもホール等の広いスペースでは、様々な音が耳に入り必要な音を正確に聞き分けることが困難と言われています。その解決方法として補聴援助機器がありますが、那須野

同ホールは、大田原市と那須

塩原市の共同施設となっており、予算や修繕等は毎年両市による管理運営検討委員会において優先順位を決め実行しています。

質問（高野礼子議員）
難聴者に対するバリアフリーの考えについて伺います。

が原ハーモニホールでは、平成6年の開業時に、音声を赤外線に変換し、貸出用のレシーバーで受信することにより、補聴器で聞き取りやすくする補聴器補助システムを導入していました。しかし、経年劣化により機器の故障が増え、部品の生産も中止されたことから、現在は使用されていません。

難聴者に対するバリアフリーの必要性は理解していますが、内容やニーズを検討し、決められた予算の中で優先順位の高いものから進めていく考えです。